

※枠内の品目については、各業種の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載

(2) 財別動向（生産・在庫の詳細はp.42以降を参照）

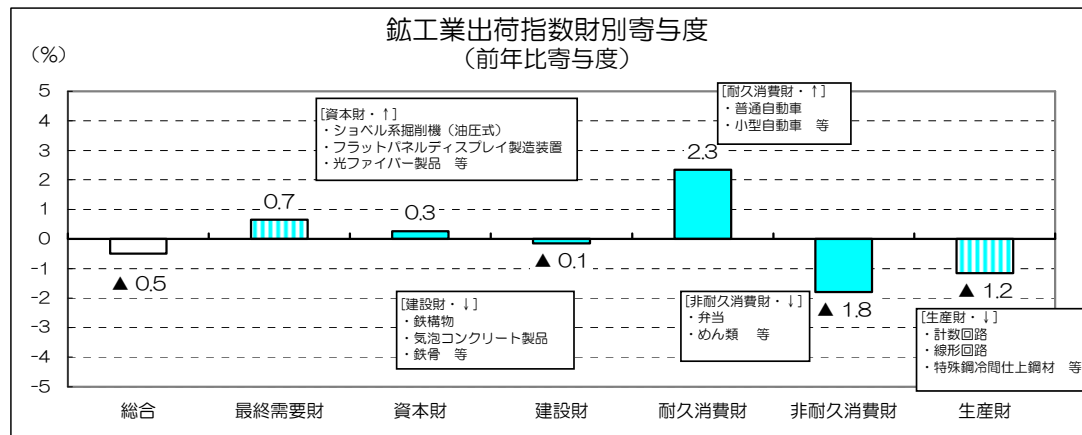
財別（＝用途別）の出荷指数を用いて、耐久消費財、資本財などの財の需要動向や、財の動きを通して最終需要の動きを把握することができる。

- 総合出荷指数は92.3で、前年比▲0.5%減で2年ぶりの低下となった。最終需要財は同1.1%増と2年連続の上昇となった。生産財は同▲3.1%減と2年ぶりの低下となった。
- 最終需要財のうち、資本財は、ショベル系掘削機（油圧式）、フラットパネルディスプレイ製造装置、光ファイバー製品などが上昇したため、同2.5%増で2年連続の上昇となった。建設財は、鉄構物、気泡コンクリート製品、鉄骨などが低下したため、同▲2.5%減で10年連続の低下となった。
- 耐久消費財は、普通自動車、小型自動車などが上昇したため、同8.1%増で2年連続の上昇となった。非耐久消費財は、弁当、めん類などが低下したため同▲11.1%減で2年連続の低下となった。

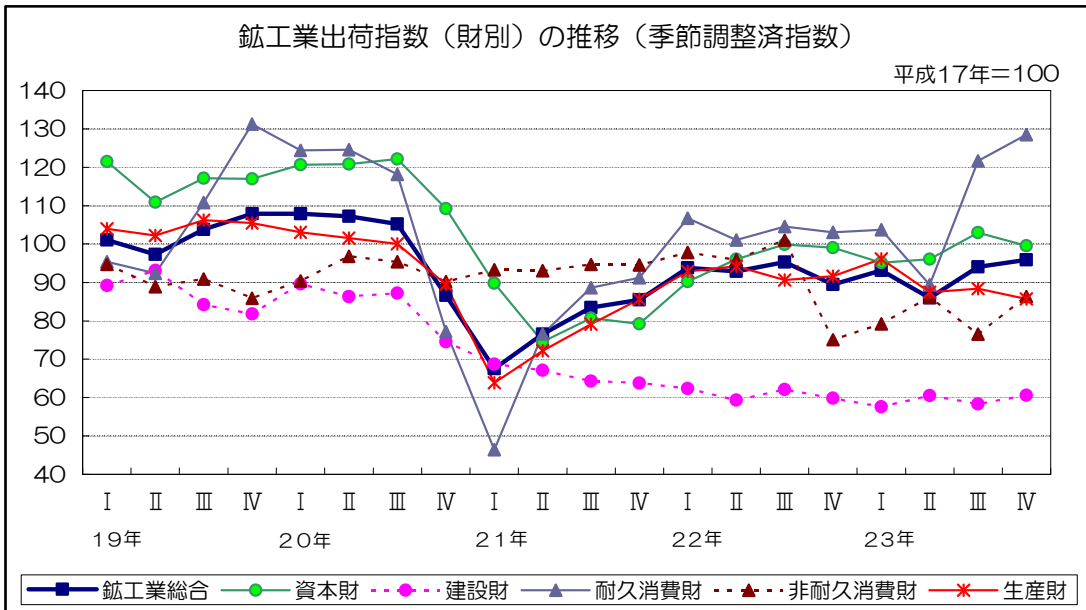
鉱工業出荷指数（財別）の推移（年は原指数、四半期は季節調整済指数）

平成17年=100

	19年	20年	21年	22年	23年	四半期			
						I	II	III	IV
鉱工業総合	102.7	101.6	78.4	92.8	92.3	93.1	86.0	94.0	95.9
前期（年）比	▲0.3	▲1.1	▲22.8	18.4	▲0.5	4.0	▲7.6	9.3	2.0
前年同期比	—	—	—	—	—	▲2.7	▲7.6	0.3	7.4
最終需要財	101.6	103.4	80.1	93.1	94.1	89.6	85.6	97.5	102.9
前期（年）比	▲1.6	1.8	▲22.5	16.2	1.1	1.0	▲4.5	13.9	5.5
前年同期比	—	—	—	—	—	▲7.0	▲7.9	2.5	16.2
投資財	102.9	102.5	74.3	79.7	80.2	77.9	78.9	82.4	81.6
前期（年）比	▲1.1	▲0.4	▲27.5	7.3	0.6	▲3.7	1.3	4.4	▲1.0
前年同期比	—	—	—	—	—	0.4	0.0	0.7	1.7
資本財	116.8	118.4	81.5	96.1	98.5	95.2	96.0	103.0	99.5
前期（年）比	6.3	1.4	▲31.2	17.9	2.5	▲3.8	0.8	7.3	▲3.4
前年同期比	—	—	—	—	—	5.0	▲1.2	4.0	1.4
建設財	87.0	84.3	65.9	60.8	59.3	57.6	60.5	58.3	60.6
前期（年）比	▲10.5	▲3.1	▲21.8	▲7.7	▲2.5	▲3.7	5.0	▲3.6	3.9
前年同期比	—	—	—	—	—	▲8.3	1.9	▲5.7	2.2
消費財	101.0	103.8	82.8	99.3	100.5	95.4	87.8	104.4	112.9
前期（年）比	▲1.8	2.8	▲20.2	19.9	1.2	2.9	▲8.0	18.9	8.1
前年同期比	—	—	—	—	—	▲9.9	▲10.6	3.2	21.7
耐久消費財	107.9	110.3	76.0	103.6	112.0	103.7	89.4	121.7	128.5
前期（年）比	3.4	2.2	▲31.1	36.3	8.1	0.6	▲13.8	36.1	5.6
前年同期比	—	—	—	—	—	▲4.7	▲11.2	19.5	25.2
非耐久消費財	90.0	93.3	93.9	92.4	82.1	79.2	86.1	76.5	86.3
前期（年）比	▲10.4	3.7	0.6	▲1.6	▲11.1	5.5	8.7	▲11.1	12.8
前年同期比	—	—	—	—	—	▲19.1	▲9.6	▲24.2	13.8
生産財	104.5	98.5	75.5	92.3	89.4	96.1	87.5	88.4	85.7
前期（年）比	1.9	▲5.7	▲23.4	22.3	▲3.1	4.9	▲8.9	1.0	▲3.1
前年同期比	—	—	—	—	—	4.8	▲7.0	▲3.4	▲6.8

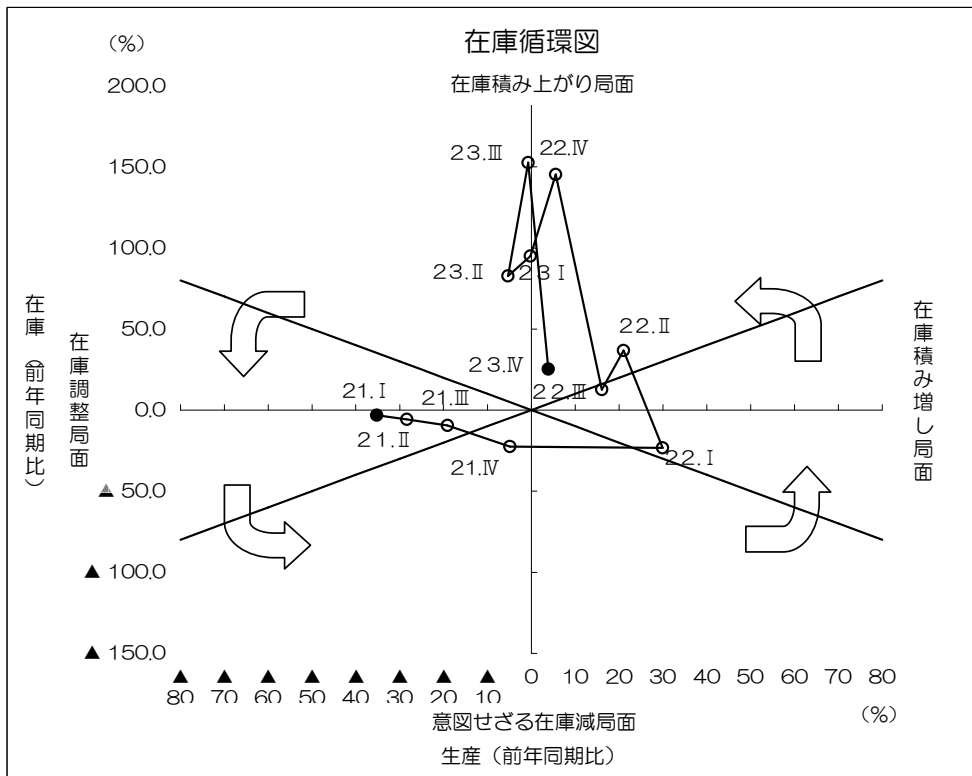


※枠内の品目については、財別の上昇または下落に寄与した主な品目を掲載



(3) 在庫循環図

在庫循環状況を見ると、23年は「在庫積み上がり局面」で推移している。



※在庫循環図の見方  
 横軸に生産、縦軸に在庫の前年同月（期）比をとり、生産と在庫の関係から現状を判断する。  
 一般的に、右斜め上45°より下にあるときは景気の回復期で、上にあるときは後退期と考えられる。